

『エージェントタイプ』説明資料

① LanScope Cat 5 MR タイプ別機能

1. 常駐MR

メモリに常駐。稼動情報など全機能収集可能。MGRと通信可能なことがログ収集の必須条件

2. 非常駐MR

メモリに常駐しない。起動時に資産情報トラップし、終了する。

3. オフラインMR

モバイル端末などに使用。MGRと通信不可の状態であってもイベント取得が可能。イベント発生時に常にトラップし、マネージャの受信の可否を確認し、受信しない場合はローカルディスクに保存する。接続できた時点で保存したログを全てトラップする。起動時に常にON通信を行い、完了しない場合はリトライする。

4. LANオフラインMR

3の拡張版。起動時の接続状況を確認して、ON通信を行う。非接続の状態ではON通信は行わず、イベントをローカルディスクに保存する。保存したログはLANに接続された時点でのみ送信する。LAN接続時取得専用のタイプである。InternetExplorer5以上が必須。

5. RASオフラインMR

3の拡張版。起動時の接続状況を確認して、ON通信を行う。非接続の状態ではON通信は行わず、イベントをローカルディスクに保存する。保存したログはRAS(ダイヤルアップ)で接続された時点でのみログを送信する。RAS(ダイヤルアップ)接続専用のタイプである。InternetExplorer5以上が必須。

6. INSオフラインMR

ISDN回線などの従量課金制の回線を引いている拠点の端末に使用する。イベントはローカルディスクに保存し、ON時又は0時0分に保存したログを全てトラップする。マネージャに対して通信を行なうのはMR起動時、終了時と0時0分のみであり、課金を極力抑えることが可能。

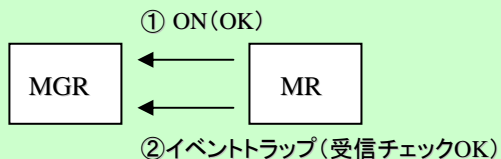
7. スタンドアロンMR

マネージャと物理的に接続されることの無いスタンドアロン端末に使用する。イベントはローカルディスクに保存する。取得できる情報は、資産管理一覧機能、MSOffice管理機能、プロダクトID管理機能、アプリケーション管理機能、プリントログ機能、アプリケーションタスク機能、パージョン管理機能、リアルタイムイベント集計機能 の8種類。保存したイベントはFD等のメディア媒体を通じて統合コンソールからインポートすることで表示。

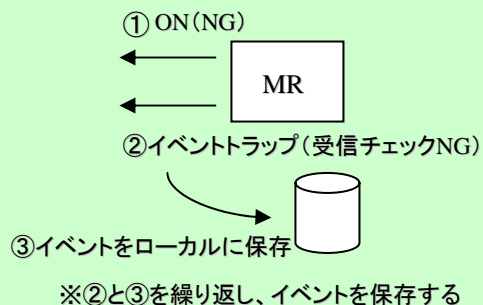
② オフラインMR動作概要

★オンライン状態

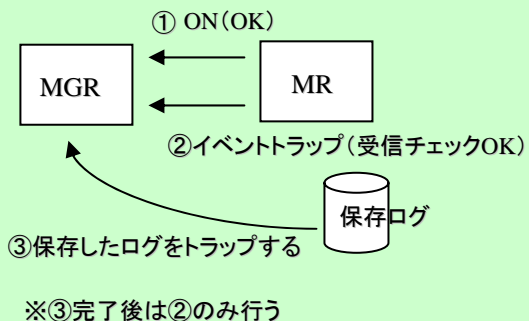
【オフラインMR】



★オフライン状態

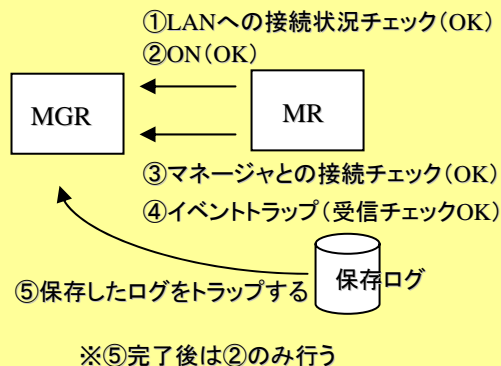
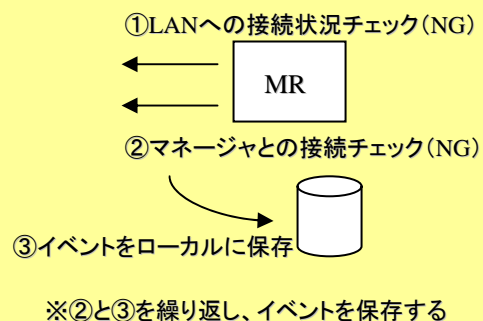
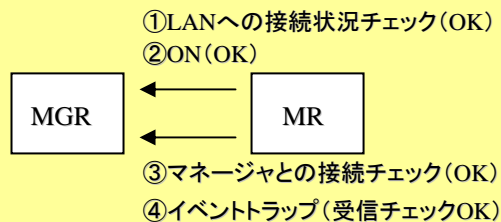


★オフライン→オンライン状態



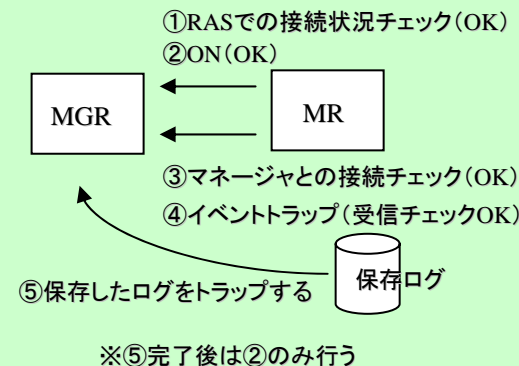
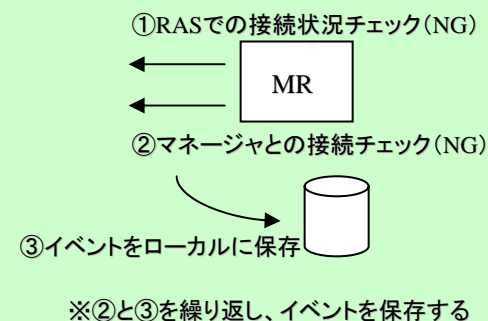
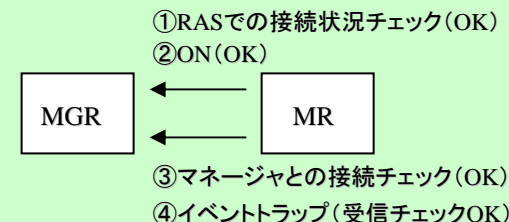
※ON完了しなくてもイベントは送信→NGであれば保存する

【LANオフラインMR】



IE5以上必須

【RASオフラインMR】



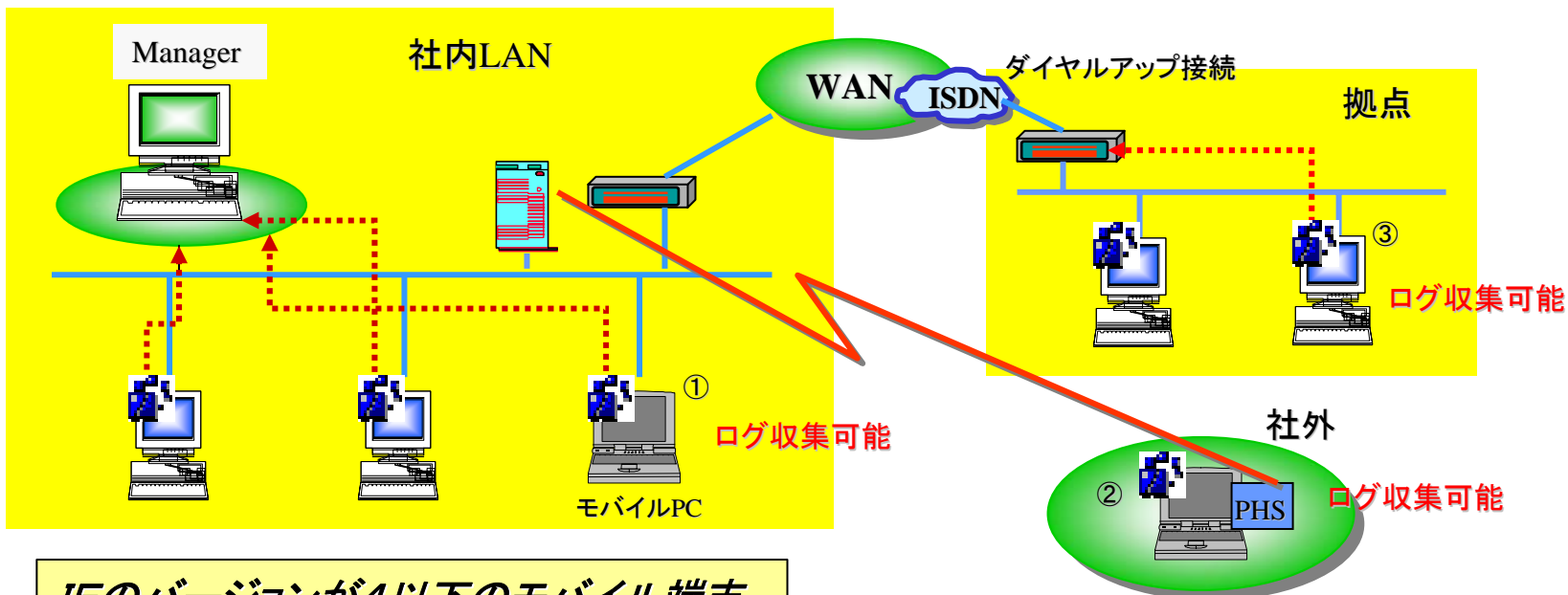
IE5以上必須

※オフラインMRはトラップ後、接続チェックを行うが、LANオフラインMR、RASオフラインMRは接続チェック後にトラップを行ない、再度接続チェックする。



③「オフラインMR」を選択する場合

★LANおよびRAS (ダイヤルアップ) のいずれかで接続された場合にログを送信する (IE 4 以下の場合)



IEのバージョンが4以下のモバイル端末に使用する。

パターン①

端末を外に持ち出し、外からは社内LANには接続しない。定期的に社内に持ち帰り、LANに接続する。常時接続の専用線でも良い

パターン②

端末を外に持ち出し、社外からRASで接続する。

パターン③

拠点からダイヤルアップのみでLANに接続する。

※IEまたはダイヤルアップモデムでパケットを自動認識して接続する設定になっていない場合であれば選択可能。

【特徴】

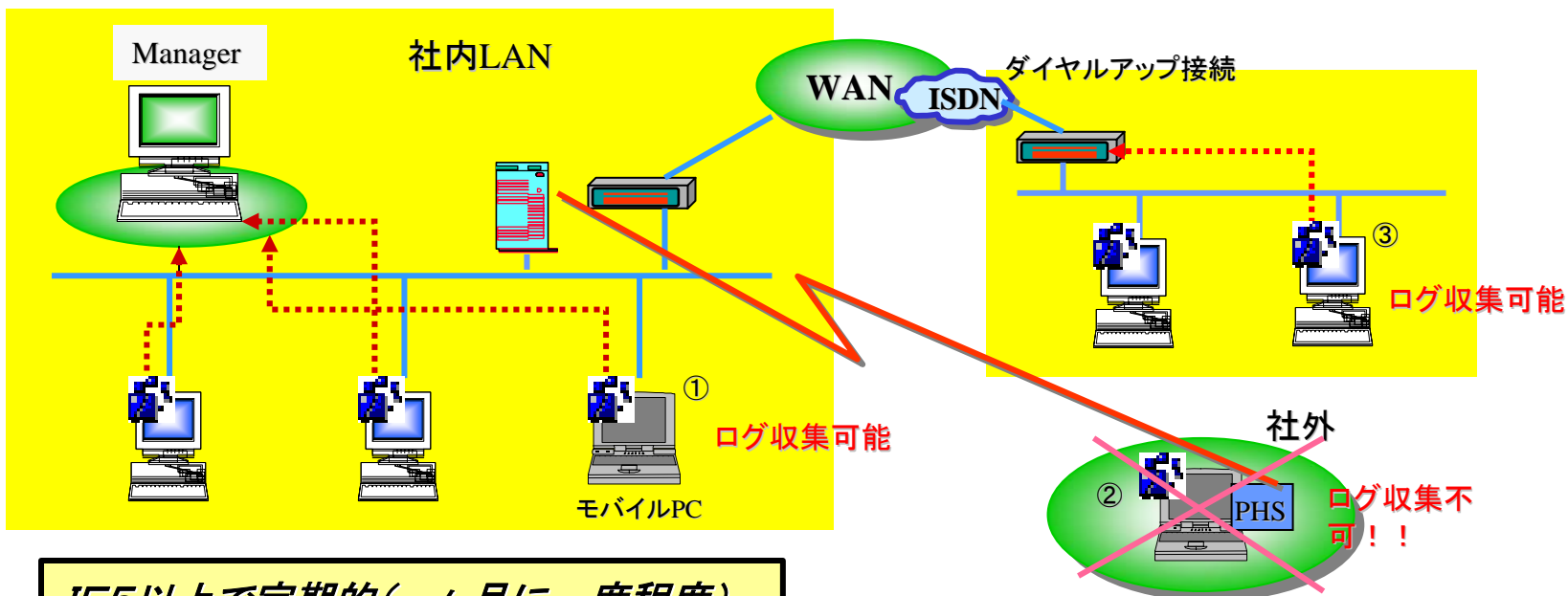
1. 様々な環境に対応できる。汎用性がある。
2. IEのバージョンに依存しない。
3. LAN、RAS (ダイヤルアップ) のどちらの場合でも、接続されたタイミングでログを収集できる。

【デメリット】

1. LANに接続されていない間はON通信のリトライを行う(30秒に1度)
※動作上問題はありません。
2. IEやモデムの自動認識設定がされている端末では接続のダイアログが表示されたり、通信不可の状態になる場合がある。
3. ローカルディスクに保存されるログは31日でサイクリックされる。

④「LANオフラインMR」を選択する場合

★LANに接続された場合のみログを送信する



IE5以上で定期的(一ヶ月に一度程度)社内LANに接続されるモバイル端末で使用する。

パターン①

端末を外に持ち出し、外からは社内LANには接続しない。定期的に社内に持ち帰り、LANに接続する。常時接続の専用線でも良い

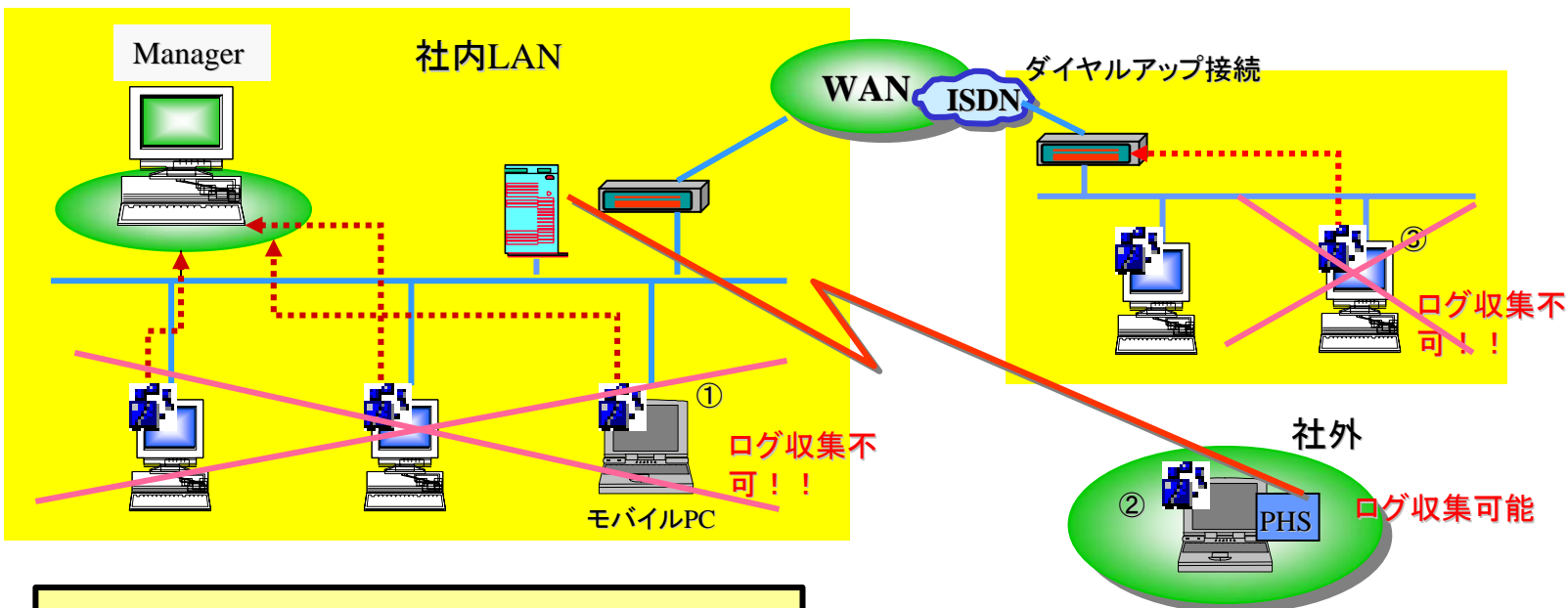
※IE5以上が必須。ダイヤルアップモデムでパケットを自動認識して接続する設定になっている端末の場合に選択する。

【特徴】

1. 非接続の環境下ではON通信は行わず、LANに接続された時点でON通信を行い、ログをトラップする。
2. IEは5以上が必須(sensapi.dllを使用し、接続状況を判断する為)
3. LAN環境下でのみでログを収集できる。(ダイヤルアップ接続時では収集不可)
4. IE、モデムなどの自動認識の設定に対応できる。
5. ローカルディスクに保存されるログは31日でサイクリックされる。

⑤「RASオフラインMR」を選択する場合

★RAS (ダイヤルアップ) で接続された場合のみログを送信する



IE5以上でRASでのみ社内LANに接続されるモバイル端末で使用する。

パターン①

端末を外に持ち出し、社外からRASで接続する。

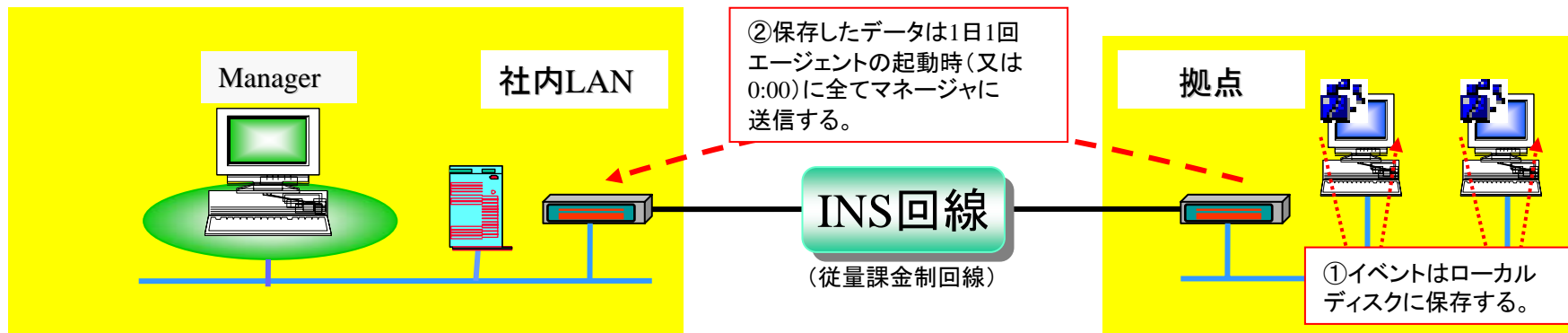
※IEまたはダイヤルアップモデムでパケットを自動認識して接続する設定になっている端末の場合は選択する。

【特徴】

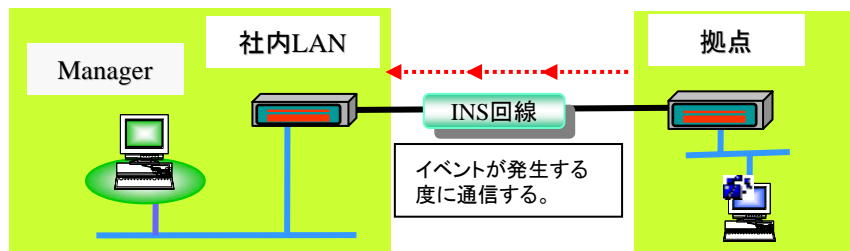
1. 非接続の環境下ではON通信は行わず、RAS(ダイヤルアップ)で接続された時点でON通信を行い、ログをトラップする。
2. IEは5以上が必須(sessapi.dllを使用し、接続状況を判断する為)
3. RAS(ダイヤルアップ)接続環境下でのみログを収集できる。(LAN接続時では収集不可)
4. IE、モデムなどの自動認識の設定に対応できる。
5. ローカルディスクに保存されるログは31日でサイクリックされる。

⑥「INS オフラインMR」を選択する場合

★従量課金制の回線を引いている拠点のPCを少ない通信費で管理可能



(常駐タイプの場合)



INS回線などの従量課金制の回線を引いている拠点の端末に使用する。通信にかかる費用を極力抑えることができる。

※エージェントが終了しない場合、データがローカルディスクに蓄積しつづけることを防ぐため、0:00に保存したデータをトラップする。

【特徴】

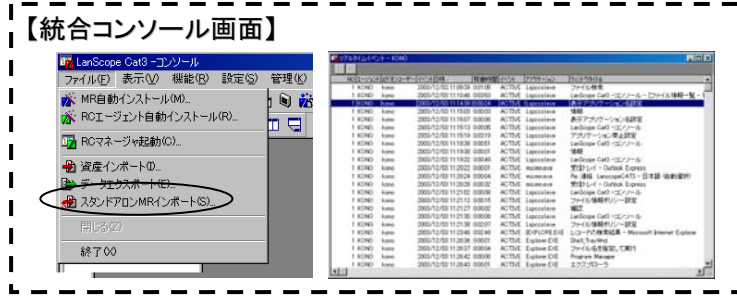
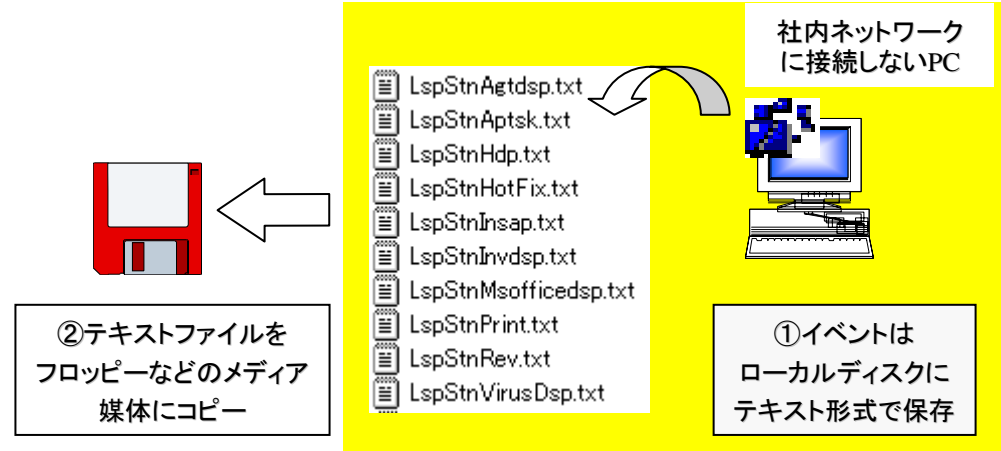
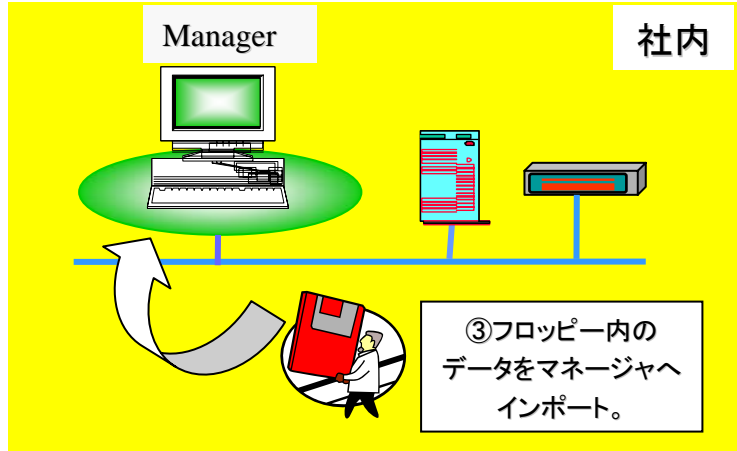
1. マネージャに対して通信を行なうのはエージェント起動、終了時と0:00のみ。
2. 通信料を極力抑えることが可能。
3. ローカルディスクに保存されるログは31日でサイクリックされる。

【注意点】

エージェント起動時に保存したログを一気に送信する仕様上、朝の出勤時にはサブマネージャにデータが集中し、高い負荷がかかるようになる。このため、INSオフラインMRは1サブマネージャ当たり100台を上限として設定して下さい。

⑦「スタンドアロン型MR」を選択する場合

★社内ネットワークに一切接続しないPCの管理が可能



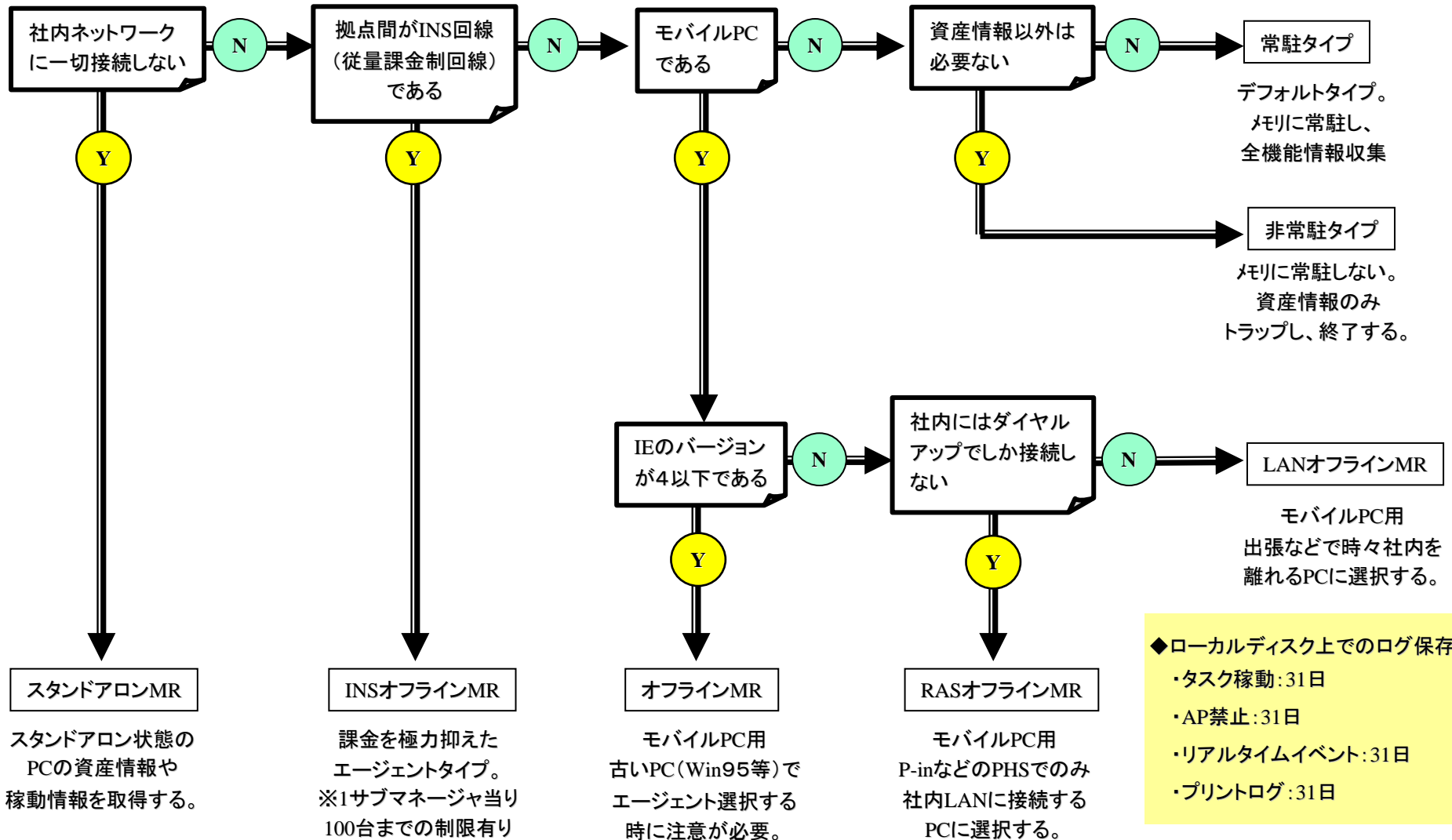
【取得情報一覧】

ハードウェア情報	○	
MS OFFICE管理機能	○	
プロダクトID管理情報	○	
アプリケーション管理情報	○	
Hotfix管理情報	○	
ウィルス対策ソフト管理機能	○	
資産アラームログ	×	
アプリケーション稼動ログ	○	※バージョン管理含む
アプリケーション禁止機能	×	
リアルタイムイベントログ	○	
プリントログ機能	○	
ファイル情報機能	×	
ファイル配布機能	×	
アンケート機能	×	
WEBアクセス機能	×	※オフラインデバイス禁止含む

社内ネットワークに接続しない(スタンドアロン状態の)端末に使用する。

※ローカルディスクに保存できる期間は31日間なので、必ず1ヶ月に1度マネージャへ情報をインポートする必要がある。

エージェントタイプ選択表



- ◆ローカルディスク上でのログ保存日数
- ・タスク稼動: 31日
 - ・AP禁止: 31日
 - ・リアルタイムイベント: 31日
 - ・プリントログ: 31日